

第9回出雲市自治基本条例（仮称）市民懇話会 会議概要

-
- ◆日 時：平成23年2月10日（木） 19時～21時00分
 - ◆場 所：市役所1階 くにびき大ホール
 - ◆参集者：市民懇話会委員（15名）
アドバイザー（1名）、事務局、職員研究会
-

○前回会議録の確認について

（世話人代表）1頁目第1班委員の冒頭の文章が分かり難い表現になっているとの指摘をいただいたので、「行政がすべきことと地域ができることは地域ですべきであるという見直しをしていく必要がある」とあるを、「地域（自治会単位等）の問題は出来るだけ、地域の住民自身の力で解決していくという姿勢が大切ではないか」というように修正していただきたい。

（事務局）了解した。

（世話人代表）その他、加筆修正はないか。

（各委員）なし。

1. 全体討議

『地域コミュニティ』をテーマにしたグループ別討議で出された意見をもとに全体討議を実施。

（委員）前回欠席したので会議録を読んだうえで、気付いた点を言わせていただく。2頁目の中段に、「理想としては別々の組織であるコミセンと自治会を一体化してみてもどうか」との意見が出たようであるが、個人的には、地域によってコミセンも自治会もそれぞれの在り方が随分異なっていると思っている。自治会・町内会の加入率が市全体の平均で70%くらいだが、四絡地区では40%あたりである。加入率の低い市街地では、コミセンと合体することはできないと考えている。また、自治協会の会長とコミセンの運営委員会の長が一致することは、その地域において権力構造の頂点ができることになるので、良くないのではないかと思う。地域の自治やコミュニケーションを良くしていくためには、一人のボスを中心に回っていくというのはよろしくない。便利な点もあるかもしれないが、出来ればそれぞれのトップは別の人の方が良いと思う。

次に、3頁下段の「コミセンの公選化」については、良い面、悪い面の両面があると思う。良い人ばかりが公募してくれれば良いが、そうとは限らない場合もあり、運営に困ることもあると思う。公募と団体からの推薦（団体の代表）と混在した形が良いのではないかと実感として思っている。

もう1点は、4頁7行目の「コミュニティとはさまざまな自主的な団体等が集まって、交流していく、活動していくというふうに解釈している」と記されているが、コミセンは基本的にはさまざまな団体の代表が集まって運営していることから、自分も同意見である。

（委員）公募の件については、団体の代表も手を挙げるべきではないかという意図があって、出したものである。団体の代表も公募で選ばれることにより、先程言われた地域の権力構造ということも解消されるのではないかと考えている。但し、公募のやり方が難しいと思う。この地域を良くしていこうという気持ちを持っておられる個人、或いは団体が、それぞれ手を挙げていただくというのが原則であるべきだと考えている。

（委員）公募された方を誰が選ぶのかという課題がある。

（委員）その地域の住民全員で選ぶのが望ましいが、現実的には難しい話ではある。どのような方法が考えられるのかは詰めていく必要があるが、原則は、自治協会の会長であっても手を挙げるとするのが良いと考えている。

（委員）確かに、誰が選ぶのかは難しい問題である。各団体の人数比にもよるが、ある程度の規模の各団体の長が集まって公募を進めていかないと、上手くいかないのではないかと思います。オール公募の場合は、選考が難しいということもあるので、混在という方法が良いのではないかという気がした。これも一つの案である。

（委員）前回のグループ別討議の中で気になったのが、「コミセン」と「コミュニティ」を混乱して考えておられる方が見受けられたことである。コミセンがどのような役割を持って出雲市が設置しているのかを説明したい。出雲市は、コミュニティセンターの設置及び管理に関する条例の中で、「社会教育法に定める公民館機能の一層の拡充強化を図るとともに生涯学習、文化及びスポーツ・レクリエーション活動並びに青少年育成、男児共同参画、人権、福祉、環境保護活動及び自治会活動支援など地域の総合的な市民活動の拠点として、また、市政全般の情報収集・提供などの機能を有する施設としてコミュニティセンターを設置する」と定めている。

コミセンは、①公民館としての役割、②市民活動の拠点としての役割、③市政全般との連絡調整などの役割を持っており、コミセン職員もそのように解釈して業務にあたっている。コミセンに対して、様々なことを求められているが、現在、出雲市はコミセン職

員を正規職員ではあるが、1年間（単年度）契約の職員として扱っている。また、運営委員会の委員の選び方については、運営委員会の中で推薦により選んで市が任命するという規定をしているので、この規定を変えない限り、先程言われた公募等のやり方は機能し難いのではないかと思う。コミセンがおかれている実情を踏まえて今後の地域コミュニティを考えていかなければならないと思う。

（委員）先程の意見について確認したい。コミセンとコミュニティに対する認識が違って受け止められているということについては、この懇話会の中で見受けられるということか。

（委員）この懇話会委員の中でということである。

（委員）この「地域コミュニティ」を議論していくうえで、PTA、自治会、地域と学校の関係は例示として出されたもので、まだたくさん他の事柄もあるはずである。広い意味で、「地域コミュニティ」とは何だろうかということを考えていかなければならないと感じていた。PTAについてだが、言葉自体についてもだが、今の時代では、保護者会が主流になっているし、祖父母の方が保護者になっておられることもあるので、そこらあたりも含めて考えていく必要があるように思う。「地域コミュニティ」に係る要素はたくさんあると思うし、行政の方で拾い上げてもらえると思うが、地域コミュニティとは「みんなで話し合っていく」ということではないかと考えている。

自分の住む地域のコミセンの運営委員会の委員は概ね20人前後である。各種団体の長が委員になっておられるが、各団体の長はそれぞれの団体の中である程度選ばれた方々であり、それぞれの団体から信託を受けた人達で構成された運営委員会である。公募という考えも大切だが、誰が誰を選ぶのかという問題もある。自治協会の役員等についても、その地域で良く話し合っって推薦していくようなかたちが望ましい。ただ、各地域で状況は、当然、異なっているのではないかと思う。

（委員）町内会のうえに自治会、自治協会があり、一方、コミセンは「場」とであると自分は認識している。また、自治協会の会長と理事などは、任期と留任を妨げないということがあるものの、10年くらい代わっていない。メンバーが代らないという現実があることから、公選化が良いのではないかと思っているし、かつ、団体で選ばれた方が、自治協会の役員等になれるのも良いことだが、要は、「代わっていかなければならない」と思っている。誰が決めるのかということについては、町内会の代表あたりが選挙民となって、選んでいくというのが良いのかなとも思っている。

（委員）10年間も代らないというのは、規約、会則の問題もあると思う。私の地域では、1期2年、再任を妨げない、但し、3期までとしているので、一度に全部代わるという

ことはもちろんないが、徐々にメンバーが入れ替わって、新しい考え方も入ってくるので、そのような規約にされたらどうか。

(委員) それは、何の規約か。

(委員) 自治協会理事役員の規約である。

(委員) 先程の任期の問題以外で、自治会や町内会に加入していない人や各種団体にも属していない人が市民の中で多くなってきていることが大きな問題であると自分ではとらえている。これから、そのような人たちが多くなってきている現状の中で、地域とか、コミュニティについて考えていかなければならないが、地域の中に如何にして巻き込んでいくのかということを考えていく必要があると思う。

(委員) 自治協会とコミセンの活動は異なるものであり、コミセンは自治協会に入っていない人も対象にしている。その意味では、特に、加入率の低い地域にとっては、コミセンの活動は大事なものであるということが言いたかった。

(委員) 先程の意見を受けて、団体に属していない人、町内会に加入していない人をどのようにして地域の活動に参加してもらうのか、例えば、団体や町内会に入ってくださいと勧誘するのも一つの方法であるが、もっと他の新しい方法があるかも知れない。その点を見出していないと解決に至らないのではないかということが言いたかった。

(委員) 前回の討議では、どの班も地域と学校の関係がさらっと触れられたような気がする。私は以前、中学校のスクールヘルパーの任にあっていたが、運営理事会の立ち上げ当初は、教職員側はその会に対して冷ややかであった。学校側は、問題等を地域に知られたくないという考えもあり、ある意味、形骸化した会であったように思う。しかし、家庭を含めた地域と学校の関係は、直接、条例の中に盛り込まれることにはならないと思うが、大切な問題であり、もっと掘り下げて議論をすべきであると思う。

(委員) 学校運営理事会については、多くの資料が配付され、一読いただいたと思う。私自身は、出雲市は事業そのものがかなり推進されているように感じた。

(委員) 私の住む地域の中学校で、運営理事会の委員を勤めた経験がある。学校に対して、もっと運営理事会を利用して良い学校にしていこうという気持ちでいろいろなことを言っていて欲しいと伝えていたつもりである。私も、地域と学校の関係については、もう少し議論をしていく必要があると思っている。

(委員) 学校の話から離れるが、町内会、自治会の加入率の数値を教えてもらったところ、新しい町ということ言えば、四絡地区の加入率は41%であった。何故、入ってもらえないかを考えるよりも魅力ある町内会をめざすことを考えた方が良いのではないかと思った。

(委員) 魅力ある町内会をめざすということは、非常に難しいと考えている。町内会に入っておられない方の多くはアパート暮らしの方々に、言わば、定住意識が少ない方々ではないかと思っている。また、比較的若い方たちである。と言いつつも、地元でふるさと祭りなどの魅力ある行事を行うと、結構参加される。自治協会の行事も大切だが、コミセンで魅力ある行事を行ってもらうことが、より多くの人たちが集まるということもあり、さらに大切ではないかと思う。

(委員) コミセンが、コミュニティの中心の場として活躍することが重要であると私も思う。そのような事業を誰が決めるのかということが、公募にも繋がってくる。私が公募にこだわるのは、アパートで暮らしている人たちも、その地域で、その地域のための新しい企画、やってみたい事業を持ってもらえると思う。それらをコミセンが受け入れられるような仕掛けをしていく必要がある。何よりも、参加が大切であるが、外から入ってきた人、一人暮らしの人をどのようにコミュニティに巻き込んでいくのかが、新しい出雲をつくっていく、つまり、まちづくりをしていくうえで、この基本条例の中の根底のものとして必要であると思っている。

(委員) いろいろな話題が飛び交っているので整理をする必要がある。コミセンを題材とした場合、運営委員会の委員は、基本的には、法律的にも手法的にも公募に馴染まないと考えている。但し、センター長とか職員は、現に公募されている。さらに、無償のスタッフもおられるが、これも公募されている。運営委員会の委員と職員とは区別して考えなければならない。誰でも公募ということではなく、運営委員会の委員は、先程言われたように、各団体の代表の方々等で、それぞれの団体で充て職のようなかたちで推薦（選ばれた）された人であり、一定のフィルターを通して出られた委員さん達であるので、公募には馴染まないのではないかと私は思う。

(委員) 各委員の意見を聴いて、改めてコミセンの大切な役割を再認識した。大変良かったと思う。今は、生まれてからずっと地元に住み続けている人は少ないと思う。生まれは地元でも、一時外へ出てから帰ってこられた人、全く初めて入ってこられた人などが多くなってきているが、すべての人をひっくるめて、地域に巻き込んでいかなければいけないと思う。そのために、コミセンを上手く使っているいろいろな意見を交えて使ってもらおうという方法もあるし、また、学校や学校運営理事会を使って、地域を結びつけるのも一つの方法であり、他の方法もあると思うので、そのあたりの議論もしていきたいと

思う。

(委員) コミセンは、「情報提供の発信元」であると思う。地域行事の例として祭りがあるが、学校や地元企業の参加により、その地域が更に活性化していくと思うが、その呼びかけ、情報発信をしていくのは、自治会に入っていない人にも伝えるためにはコミセンが最適である。それだけ、コミセンという場は大切であると思っている。

(委員) 私の住む地域では、既に地元のふるさと祭りには学校側から参加させてほしいということから、一緒になって取り組んでいる。最近、若者の意見を聴く機会があった。これからは、もっと、会合や行事に若者を巻き込んでいくことを考えてほしい、年寄りだけの会合では良くないとの意見を私に言ってくれた。今後、この条例の提言の中に、どのようにして若者を巻き込んでいくのかということも考えて入れていきたいと思う。

(委員) 前回のグループ別討議で言い残したことがある。それは、地元にあるいろいろなスポーツ少年団を地域で応援していくということも含めて、それらの団体を把握しているコミセンが情報発信して盛り上げていくのも良い方法かなと思っていた。

(委員) 他の地域でも開催されていると思うが、私の地域では、秋口に2日間、学校も含め地域をあげて文化祭を開催している。この地域をあげた文化祭もコミセンを中心に開催しており、コミセンの中にはいろいろな組織があり、網目のように組み合わせあって連携している。また、学校側からのお願いもあって、自由に地域の人々が学校へ入っている状況である。

(委員) 学校運営理事会については、教育委員会が主要な施策として取り組んでおられるが、3班の意見ではどちらかというところと懐疑的な意見が出ていた。もう少し、期間を置いて考えていく必要があると感じた。コミセンについては、地域差がかなりあるように感じられる。私の住む地域のコミセンのスタッフは人数も少なく、大変忙しくしておられる。気の毒なくらいである。町内会については、私の住む地域の自治協会長との話の中で、町内会に加入する意思のない人、アパート暮らしの人々は出雲市民という意識がない人たちなので、そのような人たちに無理に加入を勧誘するよりは、町内会に加入して楽しくなるような町内会をつくって、それから加入してもらおうというような運動をしていく方が良いとの考えを聴かせていただいた。各委員のご意見と同じである。

(委員) 私は、(外からこの地域に入ってきたので) まさしく、何処にも参加していない。自治会に入っていないし、コミセンにも行ったことがない。行かなくても何も不自由はないというところではあるが、今日の各委員の意見を聴いて、コミュニティの大切さを認識した。しかしながら、実際には、上手いきっかけが無くて、どうやって参加すれば

良いのか戸惑っている面もある。

(委員) 地域と学校の関係についての所感になるが、出雲の中学校は、学校に保護者を入れない、地域を受け入れないという感じを持っている。PTAに対しても、疑問を持っている。杉並区の和田中学校では、PTAを廃止して、地域学校運営理事会だけにして地域で学校を育てていこうという取組みがされているようであり、素晴らしい取り組みであると思っている。私の住む地域の中学校の運営理事会では、最初と最後ごろに開催される程度で、実質的な活動は何もされていないような会であるように受け止めている。委員の方々も学校に携わっておられるわけではないし、学校内の様子も分からないので、仕方のない面もあるが、これからは、地域が、それこそ、お年寄りも含めて学校に興味を持ってもらえるようになればというのが理想である。現実の学校運営理事会が機能していないので、今後、活性化してほしいと思う。

(委員) 私は、市営住宅に住んでいるので、自治会には加入しているが、(ここに長く住んでいるのに) どうしてもよそ者としかみてもらえていないように感じている。出来る限り、会合等も含めて、外へ積極的に出掛けて行きたい。また、理解してもらいたいと思っている。

(世話人代表) 予定の時間が迫ってきた。全体討議を締めたいが、思い残し、言い残しがあってはいけないが、如何か。

(委員) 先程の意見を聴いて、コミュニティというものの本質を聴かしていただいた気がする。これまで話をしてきたコミセンというのは、施設を中核とした活動であるが、コミュニティの本質は、やはり「人と人とのつながり」であると思う。簡単に答えが出てくるものではない。そういう意識を誰もが持つように仕向けていかないと、コミセンがいくら頑張ってもコミュニティそのものにはならない。一助にはなっても、大きな助けにはならないと思う。今、そのことを痛感した。これを結論の一つにしてほしい。

(委員) 自治協会の会長さん方が集まれ、何十年もコミュニティをどうやって活性化させていくのかについて相当検討されてきておられることを知っているが、今に至っても外国の方や外から入ってこられた人、アパート暮らしの人たちが、コミュニティに参加されていない、という現実がある。基本的にそのところをどうするのかということを、条例を考える中で、掘り下げて、本質のところを議論していかないといけないと思う。斐川町は人口も増えているようだ。どのようなコミュニティが形成されているかは分からないが、出雲も斐川も含めて、もう少しコミュニティの本質の部分を考えていく必要があると思う。

(委員) 次のテーマは「人権」で、バリアフリーや福祉等がコミュニティとも関連があると思う。先程の意見のように、心のバリアをとっていかないと、「住みよい、住みたい、住んでもらってよかった出雲市」、というふうにはならないと思う。

(世話人代表)「地域コミュニティ」関係については、また、掘り下げる機会もあるかと思う。自治会については、多選がまかり通っている地域もあれば、コミュニティが盛んで上手くいっている地域もある、コミセンが活動の拠点、情報発信の場であり、また、役割を多数持っている、自治会等に加入していない人たちをどうやって巻き込んでいくような条例づくりにするのか、そしてそのような部分の指標づくりが次のテーマの心の部分にも関連する、などの意見が出たところで「地域コミュニティ」の全体討議を締めたい。

2. グループ別討議

『人権』をテーマに、ワークショップ形式による自由討議を実施。

*各班から出された意見は別途とりまとめ

(アドバイザー) コミセン、運営委員会、町内会、自治協会、また今日の議論では出なかったが、自治区、地域自治区、地域協議会などもあると思う。これらの仕組みをいずれかの時点で整理しておく必要がある。整理は今後でもよいが、まずは把握しておいた方がよいと思う。どういう仕組みであっても、小さな自治に何を期待するのか、ということを考えていかなければならない。今日の議論の中でコミセンの役割等の説明があり、話し合われたが、小さな自治の組織に何を期待するのかによって、制度設計も異なってくる。どういうものを期待していけばよいのかということも議論の対象になりうるのかなと思う。と同時に、併せてどうすればそういうことが実現できるのかということも議論の対象になってくるものと思われる。いずれ深く議論する機会があるとすれば、先程言ったようなことが焦点になるのかな、と思って述べたところである。

2. 次回開催内容等

(事務局) 本日グループ別討議で出していただいた意見は電子データ化して事前送付する予定なので次回の討議の参考にさせていただきたい。

(世話人代表) 次回は、2/24(木) 午後7時から 市役所3階 庁議室で開催する。

以上